

湘南平～高麗山付近の野鳥、蝶、キノコ

ーガイドマップ続編・環境指標を観察するー

野鳥、蝶、そしてキノコ(木の子)、
彼らは私たちの友達、森の住人であると同時に、
環境指標としての存在が注目されています。
彼らが沢山生き生きとして、命を輝かす森、
それは生物多様性に満ちた豊かな森なのです。

彼らの生きざまを観察し、この森の今と未来を考えてみませんか？



夏鳥・留鳥



オオルリ (ヒタキ科)
囀りが美しく、日本三鳴鳥のひとつとされる。オスの背は光沢のあるブルー (4月下～5月)



キビタキ (ヒタキ科)
オスは鮮やかな黄色が目立つ。囀りは「ポッポロキー」 (4月下～5月, 10月)



ホトギス (カッコウ科)
大声で「特許許可局」と囀る。主にウグイスの巣に卵を産み、育てさせる(托卵)。(5月～6月)



センダイムシクイ (ウグイス科)
地味ながら白い眉線がよく目立つ。聞きなしは「焼酎一杯グイー」 (4月下～5月)



シジュウカラ (シジュウカラ科)
ネクタイ状の黒斑が特徴。町中でも繁殖する。(通年)



アオバト (ハト科)
森に生息しつつ、真夏には岩礁で海水を飲む習性がある。(通年)



コゲラ (キツツキ科)
「ギー」という独特の鳴き声。幹をまわりながら餌となる虫を探す。(通年)



ウグイス (ウグイス科)
「ホーホケキョ」と囀るのは春先～夏で、冬はやぶの中で「チャットチャット」と地鳴きする。(通年)



コジュケイ (キジ科)
もとは中国南部にいたものを大正時代に放鳥された。「チョットコイ」と大声で鳴く(通年)



ガビチョウ (チメドリ科)
輸入されたものがかご脱けにより定着し生息範囲を広げている。特定外来種指定 (通年)



冬鳥



ツグミ (ツグミ科)
黒褐色の複雑な模様は個体差がある。食性は、木の実・昆虫など雑食 (12月～4月)



アオジ (ホオジロ科)
地鳴きは「チツ」舌打ちのような声。やぶの中で素早く移動する。(11月～4月)



カシラダカ (ホオジロ科)
頭頂に短い冠羽があり、危険を感じた時などに立てる。(11月～4月)



ジョウビタキ (ツグミ科)
羽の白斑が目立ち、とまると尾を震わす動作をする。愛称「紋付き鳥」 (10月～4月)



ルリビタキ (ツグミ科)
オスはルリ色で美しい。冬季は1羽ずつ縄張りをもつ。(12月～4月)



シメ (アトリ科)
越冬中は単独で行動する。桃色の嘴は、北に帰る前に灰褐色に変化する。(11月～3月)



ウス (アトリ科)
囀りは「フィフィ」と小声。サクラやウメの花芽を好んで食べる。写真はアカウス。(12月～4月)



トラツグミ (ツグミ科)
暗い林を好む。夜から明け方、「ヒョー」という不気味な声で鳴く。(12月～4月)